

第 6 号

昭和31年2月25日発行



発行所
高萩市役所
編集課
農林課
印刷所
藤枝印刷所

前収入役 吉久保喜夫君の死を悼む



梅花綻びて陽春も間近かに迫る一月三十一日午前七時の鐘は噺々親愛なる前高萩市収入役吉久保喜夫君がこの時報の余韻の消えるとともに永遠に不帰の客となつたのであります。
いま私は君がわが茨城県に、また高萩市に残した数々の業績と君の人柄とを想ひ浮べ、君の霊に冥福を祈りつゝ、君の愛するこの誌上より哀悼の言葉を述べさせていただきます。

君は若くして公職に身を奉じ、明治四十二年九月多賀郡に就職大正元年九月には郡書記に榮進、地方自治のため研さんを積まれ、大正十三年十二月には茨城県農事となり会計課に勤務、続いて昭和十一年七月總務部会計課長に累進せられ県会計一切の重責を双肩に荷なわれたのであります。
君は資性温厚にして親切几帖面な性格と鋭敏な頭脳とたゆまぬ努力とによつて県会計事務の完璧を期され、その手腕力量は本県内は勿論、他県にまで名声を輝かせ且又他吏員の常に尊敬の的であつたのであります。国家は君のこの功績に対して正七位勲六等の榮譽を贈られました。

昭和十四年七月茨城県庁を退職せられ常陽銀行人事部長に就職、民間金融界にあつて公平無私な性格により人事部長の手腕を発揮されました。
ひるがえつて家庭にあつては三男一女の父として御子息御令嬢の育英に努力され良き父として又良き夫としての存在であつたのであります。

昭和二十二年四月二十四日君の郷里高萩町の招聘により樞要な収入役の地位に選任せられ、同二十九年十一月二十三日新市誕生と同時に高萩市収入役となり今日に及びました。

君は地方自治制度改正直後の財政問題に卓越した敏腕を発揮し健全財政確立に不断の努力を拂はれ、又県下の収入役会に於ては講師として後進の指導に或は新制度の研修に盡される等君の職務遂行による有形無形の成果は多大なものがあつた。

また市予算の執行については常に資金運用に留意し綿密なる計畫と適確な事務とによつて地方財政窮乏の中にあつて良く高萩市の健全財政を堅持し得たことは君の至誠の顯れでありまして誠に感謝に堪えないものがあつた。

健康については常に留意せられ恐らく自信を持っておられたと存じます。

然るに一月二十七日は如何なる悪日でありませう、当市々会終了後自席に於て脳溢血にて臥れ、御夫人御親戚始め市吏員、市議会議員の晝夜を分たぬ看護と現代医学の力の限りをつくし治療につとめられたが地方自治殊に会計責任者として輝かしい幾多の業績を残して永遠に旅立たれたのであります。

想うに君は公務員として具備すべき重要な條件の凡てを備えられた稀にみる名吏でありました、将来に願う高萩市の発展に對する君への期待が打ち切られてしまつたことは誠に残念でならないと共に高萩市初め茨城県にとつても大きな損失であつて三万市民齊しく哀悼の情禁じ得ません。

君が最後まで公務に盡した殉職の精神は永劫に滅びないと存じます。

君が生前の功績により二月三日市民最高の榮譽である市葬の礼を以て御冥福をお祈りしたのであります、こゝに市民各位とともに地方自治のためにその半生を終生を捧げられ、六十三才を一期として逝去された君の死に對し心から哀悼の意を表するものであります。

高萩市長 小 峰 威 夫

祭禮の統一について

鈴木重忠

旧正月が目眩にせまつた、先般行はれた市のアンケートの結果は判らないが依然として一年に二回迎へる正月である、私は出先で暮らしていた頃一年に三度お正月を祝つた事がある、それは偶然に新旧と月おくりによつたからだ。

秋のある日字内の知人二人から氏神祭の招待をうけたそれは鎮守祭の外に氏神祭を態々各部落(十数戸の小単位)日を代へて行ひお互に招待し合つて懇親の機会をつくる風習の一つである、祭鎮守の祭氏神何々祭お盆、お彼岸と十指を屈するに余りある農村における祭それは大いに飲み、大いに食ひ、大いに語る唯一の楽しみの機会なのである、然し時代は移つて行く映画、音楽会、芝居、演芸会、野球、卓球、運動会、ラジオテレビ等々目まぐるしきまである。慰安の機会に恵まれこそすれ楽しみに事欠かぬむしろその撰択と余暇を生み出すのに苦しむのが現状ではあるまいか。

祭それはたしかによい風習であり楽しい行事である、だがあまりに重なる事によつて経済的負担にあへず楽しみが苦しみとなる逆効果も見逃せない事実であらう。殊に招待されて客となる一、二人の人はよいが家族特に婦人にとつては大なる勞働となり苦勞の種となる。最近部落毎の氏神祭等も招待を止めて家族の静かな安息日とする家が多く見受けられるやうになつた。支那のお正月は表の戸を閉ち一切の往来を止めて家族団らんの日とする習慣がある。年始客は表の戸や門扉のすき間から賀状又は名刺をさし込んで行くだけである。学ぶべき点があるのであるまいか、おそらくどここの国へ行つても日本ほど祭の行事の多い国はあるまい。日本には八百万の神がある一々お祭していたら年中お祭である。町村合併が時代の要求であるように行事の簡素化も時代の進化に伴ひ当然なさればならぬ重要な事である此の際祭も市一円少くも各町(部落)毎に統一し敬神の美風を昂揚すると共に心豊かに安息の機会を得るやうに改むべきでないだらうか、こうした動きは全国的氣運でもある。

(市農業委員、住改善下君田部落代表者)

結婚式の簡素化

金物店々主 神 長 吉 衛

今から凡そ二十数年前、私が勤務していた霞ヶ浦海軍航空技術研究所内で「君が代結婚式」と云うのが流行したことがある。これは日の丸国旗の前で君が代を二回合唱してから、三々九度の盃を交す結婚式のことであるが、結婚式全体が極めて簡素化されていた点が面白い。先づ嫁入道具は簀篋一組、鏡台、針箱、蒲団一組程度、結納は目録だけ式服は訪問着又は貸衣裳、披露宴は、お茶に、お菓子に、うどん程度で、一滴の酒もなかつたが、実に気分がよかつた。当時、工業学校出身の先輩達は、概ね二十五、六才で結婚し、だれも一様に幸福な生活をしていた。私も「君が代結婚式」に準じて結婚してから約二十二年になる。

結婚式は男女一体となる式であるから、豊かな愛情によつて結ばれていさえすれば、派手にやらなくとも充分満足出来ると思うのである。

最近に於ける結婚式を見るならば、結納は花嫁衣裳一揃に、たるのみ金五千円位が普通、嫁入道具は、簀篋二組、洋服簀篋一組、ミシン一台、蒲団一組乃至二組、鏡台、下駄箱、張板、蔵板、鹽、等である。而も

披露には多くの人を招いて大宴会をやる風習がある中で、普通程度の結婚式でも三四十万円はかかる。此の様な次第だから、一般家庭の親にとつて結婚式は頭痛の種となる。私は昨年の四月に弟の結婚式を、日立市中央公民館で挙げさせた。先づ嫁方へ相談して結納は目録だけとし、嫁入道具は簀篋一組、ベビー簀篋一組、ミシン一合、蒲団一組、鏡台、蔵板、鹽、程度とした。公民館では使用料三百円、花嫁衣裳代五百円、着付一千円、料理は酒一本付三百円、引出物百五十円であつた。其の他、雌蝶、雄蝶謝礼六百円、生花代二百円、記念写真代八百円等であつた。出席者は総員二十五名とし、公民館の規定に従ひ、この費用を七三にわけて嫁方の負担を軽くした。

結婚式をこの程度にして買物を節約すれば、嫁入道具と式費用を合せて約七万円ですむことになる。其の他、特に本人が欲しい物を買ふ費用として、三万円位見込んだとしても、約十万円あれば、立派に結婚出来ることになる。

この様に結婚式を簡素化する為には、一日も早く中央公民館を建設し、高萩市として恥かしくない様な花嫁衣裳其の他を完備するとともに、高岡方面の人が宿泊出来る様に設備して、体をもつて行きさえすれば、結婚式一切万事OKにしたものである。

中央公民館利用の結婚式は、日立市の場合特に成果があがつている様であるが工場中心の日立市と、農家中心の高萩市では大部考えに相違があるので、高萩の場合には相当困難が予想される。しかし、良いものに変わりが無い筈であるから、どなたにも御賛成願つて、是非とも目的を達成したいと思うのである。

私は前號に於て、中央公民館の建設を急ぐ様にお願ひしておいたが、早期建設不可能な場合は、中央公民館が出来上がるまでの便法を研究し、大至急実行に移るべきだと考える。

但し本件については、その必要を認めない家庭に対して強制、束縛は出来ないもので、あくまでも個人の自由意志は尊重するが、新生活モデル市として指定されている高萩市の面目にかけて、結婚式の改善はやらなければならぬのである。従つて此の際特に心ある市民の団結を必要とするので出来得れば一度集つて相談する機会を与えてほしいと思うのである。

厚く謝意をさしげる。
(筆者住所、昭和通り 電話四五一番)

固定資産税について

収入役職務代理者 事務 吏員 川 井 光

日本再建のために一つの大きな基礎となるものは地方自治の確立ということである。これは云うまでもない。しかし地方自治の確立という事は単に制度上の改革だけでは十分に出来ないものでその裏付けとなるものとして財政の確立と更に市民の間に於ける自主精神の行きたる事が伴わなければならないと思う。

財政の中心は税であり幾たびかの税制度の改正によつて大体その土台は出来上つた訳であるが税金の完全納付が出来ない限り地方自治の確立は望めない。市の主税である固定資産税と市民税其の他を含めて滞納は約二千万となり市事業の運営に多大な支障を来している。

納税でこの道もの橋

市民の皆さん今月の市税をお忘れなく

固定資産税第四期

納期2月末日限り

みなさんのため市のため納税組合をつくりましょう

・ 高萩市役所

金に充てられるよう心掛けていたゞきたい。前號でも申し上げた通り納税組合に対しては出来る限りの助長もし、いろいろと組合員の便宜も図つて行きたいと存じますので完全納付に御協力下さるよう重ねてお願いする次第である。





早大教授

今和次郎先生の講演より

去る一月十三日高萩劇場に於て多賀農業協同組合連絡協議会主催で多賀郡農協婦人部結成大会が開催されたその席上、農村婦人と生活改善と題して早大教授今和次郎先生の講演があった。何か皆様の糧ともなればと存じまして先生の講演の中から箇條的に大要を記してみよう。

【一】衣改善について「簡単素朴を以て礼儀の最高とする」これが私の信念である。曾てアメリカ大使からお茶の会に招待されたジャンパー服以外に持合せのない自分は出席しうがしまいかとためらったが断られたら引返すまでだとジャンパー服で出席した処歓んで迎えてくれた。この時の感想の在りのまゝを産業経済新聞に掲載してアメリカ大使から讃辭を受けたことがある。

孔子の教えはエラト人も下級の人も同じでなければならぬ。清潔であれば型はどんな服でも決して失礼になるものではないとは私の持論である。

ジャンパーは活動的であり軽快であるのでもいつも愛用している。

生活改善はこうした些細なことが大切で質素で働き易い衣服でありたいと思う。そうして背広服とジャンパー服の差額を教養面なり食生活面に振り向けることである。

和服は千年前からの裁断法で一つも創意工夫と云うものがない。それに着物を着るに虚栄心が高くなる。封建的になる。和服が改善されないから小笠原流など云う現代に合わない礼儀がいつまでも残存しているのだ。

洋服は創意工夫が出来るところに和服より優っているところと云つてよい。品質の問題でなく型の創意を樂しむことが出来る。デザインのレクリエーションが出来ると。徹底的に着物を排除すると共に衣の二重生活を改善しなければならぬと思う。

服装のことでもう少し言いたいことは婚礼服である。花嫁衣裳の発端は三代將軍家光のとき、三勤交代の制度を作つた。即ち一年置に江戸と自藩に住むのみか、江戸に居る一年は妻とも別々に暮さなければならぬ。その結果が芸者をつくり花魁をつくり、二號、三號をつくり、それが当然のような風習となつた。このような状態から妻も夫を迎えるときに芸者のような服装をし花魁のような髪を結

つたのが風習となつて嫁入のときの服装もこれになつたことが現在も続いているわけである。

こうゆう風習こそ旧弊とも封建的な悪習とも云うべきで今こそ思い切つて打破し改善すべきことである。

また話がそちこちに飛ぶが子供が世の中に出て行くことの出来るように教育することが親の責任で、その後の職業につくことも結婚させることも、本人の意志にまかせることである。

品名	必要費	娯楽費	合計
さんま	10	0	10
さしみ	10	40	50
セーター	1,200	1,300	2,500

【三】公民館の活用について

公民館はめいめいの家である。座敷であるようにしなけれ、座敷ならぬ。

村のホテルと云うようにすること、座敷も多くとり、村の集会所は勿論、結婚式でも来客の宿泊や接待でもどんなことも出来るように施設をしてみんなが利用するところである。

そうすれば自分の家は寢室

に付くと共に人生を有意義に過すことである。

食物は栄養価のあるものを主眼とし食事のときに栄養価について必ず話合つてい

被服にしても原材料費は必要経費であり、色彩は娯楽であるように、うまい御馳走は娯楽である。娯楽とは気分を朗らかにすることであり、食物の必要経費とはよく付くように健康にする成分を云う。それで家計簿のつけ方も次のような方法で記入して娯楽費より多く探るよう心掛けてい

【二】食改善について

食生活を改善して健康保持につとめ、社会の為に大い

接待室と云うようなところはなくして茶室、寢室、合所に金をかけるべきである。しかし改善することは言葉では簡単だが實際に行うには、そうしたやすくは出来ないことである。ある程度の経済が基礎とされなければならないのだが、それだけ使つた金が倍加して、生活が能率化され、幸福化される積極性を持つ事である。だから前にも云つた通りむだな室の冗費を省いて積極的に有効に金を使うことが住宅の改善だと思ふ。

私が住宅について考えていることを二、三申述べて参考に供したい。

現在の文化的施設を取り入れて簡易化し得る処は出来る限り、これを整理し、また生活を愉快にする云うことを先づ第一に考えなければならぬ。

住宅改善で特に留意してほしいことは、一、衛生的見地から何処を改善しなければならぬか二、農家の場合、農家経営上、敷地一単位が余りに工場の感を呈していることに對し、これを住宅本位にするためには如何に改善したらよいのか。

三、建築上より見て既に建て替へ又は修理を必要とする個所が多分にある場合、その部分を如何に改造するか。四、使用勝手の上で現在の文化的施設を探り入れ、旧来の住宅を一層住みよくするには、どうゆうふうにするにしたらよいのか、等である

【五】私の家を訪問して

どなたも驚かれることは一、庭が綺麗である。居宅より門まで十間ほどあるが全部花畑として四季折々の花を咲かせている。これは家族全員が樂しめること、来訪された客人に喜ばれ、こゝろよい感じを与えることが出来る。又花壇の手入にしても誰に束縛されることもないし、若し将棋のように相手になければ出来ない娯楽でもなく、一人で樂しみながら手入れも出来て健康の為に非常に良い。

二、図書が多い。一年間に身長の高さだけ恋愛小説を読む。若返り法の一つとして又青春を失なわず健康で働くことが出来るからである。

この費用は服装や其の他の冗費を省いてあてゐる。

三、台所が立派である、設備も完備している。

これは前に述べた通り不要な室はとらず客間などにかける床の間とか、応接間と云つたものに、むだな経費は一切かけない。こうした費用を全部台所にかけたわけである。

【六】農家主婦の心構え

一家の経済は妻にまかせることが一番安全でもあり経

昨今の行事

○一月二十五日

昨年の十二月二十六日夜半より二十七日にかけて押寄せた高潮は茨城県より福島県下の太平洋海岸に甚大な被害を与へた。本市でも高戸海岸の防波堤内約三米延長五十米が破壊されたほか肥前山地先海岸約六〇〇米が侵蝕され本日この災害個所の実地調査のため建設省より齋藤技官外建設事務官一名及び県より河港課長補佐牧野技官外二名と鈴木一司、鈴木茂両県議が来市した。

川のような大河もなく豪雨はあつてもほんの一時の増水で道路、橋梁の流失も少ないことは幸である。今回の高潮による被害は近年にない大きなものであつたが、今後これ以上の高潮がないとは誰が予測し得よう。

○一月三十日

駅東の都市計画地内に今度初めて市営住宅が建設されることとなり県の融資を受けて昨年十二月十日起工、本日上棟の目出度に於て挙行された。鉄筋コンクリートブロック建瓦葺平屋、建坪六坪のもの八戸（一戸三人世帯居住予定）は日興建設の請負で、木造瓦葺平屋、建坪八坪半のもの十戸（一戸五人世帯居住予定）は沼田工務店の請負で竣工は三月末の予定である。

いる。人口はどん／＼増加するが住宅の建設は遅々として進まない。その反面火災による損失は年々おびただしい。火災による住宅の損失は不燃質耐火建築と各戸各人の日頃の心構えで最少限度に止めることは不可能でない筈だ。少ない資材と生産力を活用して文化住宅を建設し健康で明るい生活をしたしたいことを願するものである。

○二月十六日

国鉄高萩線バス開通式典が高萩高校講堂で山崎前運輸大臣、宮田、郡那参事員、茨城県知事、鈴木一司、鈴木茂両県議其の他来賓多数を迎え、関係者数百名が出席して盛大に挙行された。去る一月二十五日阿武隈連山のいづくような真白い雪肌の上から吹き下す寒風を真向に受け国鉄バスの新車が悠々と南中郷、横川を通過して上君田の終点に向つて試運転が行はれた。



○今和次郎先生の講演を聴き先づ実行することである。

実行と云えば二宮尊徳翁を思い出す。

勤勞、分度、推譲の三原則に立脚した哲理を鼓吹した翁も単なる理論家ではない。

実行、実践をモットーとしたところ目躍如たるものがある。理屈ばかり修めても世間は通れるものではない。国を治むるにも、一家を興すにも何より実行が大切であることは云うまでもない。

○市民の本当の声である沼田保氏の忌憚のない御批判に編集者もいさゝか自信を失ひかけたが、こゝでへこたれてはと勇氣百倍、皆様の御期待に副うよう努力いたしますればより一層の御指導御鞭撻を願いたい。

○本紙第三號の心のダイヤルで奥むめを女史の中国視察談を説かれたことだろし、また新聞などで既にご存知のように、古い歴史をもつ中国は流血の革命によつて希望をとりもどし青年国として雄々しく立上ろうとしている、一口に云えば自然と人間と社会の改造をめざして大いに努力していること云うことである。このきびしい現実の中で人間らしく生活して行くためには、日本でもそれなりに現実即ち生活をやらなければならぬと政府が新生活運動を大きく採りあげた所以もここにありと思う。